

平成28年度 学校自己評価システムシート (県立深谷高等学校)

目指す学校像	学力の向上、部活動の振興に重点を置き、地域から信頼される進学校を目指す。 文武両道の精神に基づく心豊かな生徒を育成する。
--------	---

重点目標	1 確かな学力を身につけさせ、志の高い生徒を育成する。 2 一人一人の個性を伸ばし、進路希望を実現させる。 3 規律ある態度を身につけさせ、他者を尊重する心を育成する。 4 部活動・学校行事を活性化し、活力のある学校にする。 5 地域との連携を強化し、信頼される開かれた学校にする。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	6名

学校自己評価					
年度目標				年度評価(2月1日現在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況
1	・基礎学力の定着が必要な生徒と大学進学に向け高度な学力を育成すべき生徒が混在すると共に、学習意欲にも幅がある。 基礎・基本を大切にしたい分りやすい授業を実施するとともに、学力向上に繋がる一層の工夫・実施に努め、個々に対応した丁寧な指導を行う必要がある。	・授業改善に努め学習の意欲を喚起するとともに、学力の定着・向上と学ぶ姿勢を身に付けさせる。	①各教科や学年等で深谷高校の目標値を検討し、わかりやすい授業の展開により、基礎学力の定着を図る。また、大学進学に向けた高度な学力の育成のために習熟度別授業や特進クラス授業を実施し、個に対応した授業を実践する。 ②保護者や中学生への公開授業を設定する。また教員間の授業見学期間を教育実習期間に合わせ設定する。協調学習やICTを利用した授業の研修を進める。 ③地域の大学と高大連携を継続し、出前授業や大学での実習等により生徒の興味・関心を喚起し、学習意欲を喚起する。	①成績不振者数が減少したか。成績優良者数が維持できたか。 ②公開授業を実施できたか。教員間で複数回の授業を見学できたか。 ③大学による出前授業、大学での実習の参加者が増えたか。	授業改善と学力の定着・向上に努めた結果、家庭学習に取り組む生徒の割合を33%(H27)→45%(H28)に増加させることができ、学習意欲及び学ぶ姿勢を身に付けさせることができた。 ①1・2学期末の欠点者数合計は、237人(H27)→250人(H28)と微増。 1・2学期末の成績優良者(平均評定7.5以上)は、230人(H27)→206人(H28)と1割減。 ②公開授業実施(校内:2週間、保護者・中学生等:2日)。教員間で2回以上授業を見学した。 ③高大連携(埼玉工業大学)での実習(夏季休業中に3日8/1~3、20名参加)及び出前授業(9/27、33名参加)計のべ93名で昨年度70名から増加。
2	・進学者の多くが指定校推薦及びAO入試等での進学である。一般入試でも合格できる実力を養成する必要がある	・進路意識を高めるため、進路ガイダンス、オープンキャンパス参加等進路指導を充実させ、生徒の進路希望実現に向けた計画的な進路指導を実践する。	①特進クラスのニーズを把握するために生徒との意見交換会を実施し、柔軟な運営を行う。 ②平日補習や土曜補習の充実、外部模擬試験の実施や進学希望者全員のオープンキャンパス参加により意識を向上させる。 ③企業の求人開拓を積極的に行う他、地域の支援を受けて、就職希望者全員の内定を目指す。	①特進クラス生徒の意見をどう改善に繋げたか。 ②補習への参加率が向上したか。外部模擬試験やオープンキャンパス参加者数が増えたか。 ③学校幹旋希望者の内定100%を達成できたか。	進路意識を高め、生徒の進路希望実現に向けた計画的な進路指導を実践し、卒業生ほぼ全員の進路先を決定することができた。 ①特進クラス生徒との意見交換会を実施し、補習の実施方法を生徒のニーズにあわせて改善した。 ②補習への参加率は、1年生はほぼ100%であるが、2・3年生の参加率は生徒のニーズにあわせてため、良くなかった。外部模擬試験参加者数は、17名であった。 オープンキャンパスへは、3年生の大学・短大・専門学校への進学希望者全員が参加した。 ③学校幹旋希望者の内定100%を達成できた。
3	・基本的生活習慣の確立や交通安全指導を含め、社会生活に関するルールやマナーを、家庭と連携し継続的に指導する必要がある。	・基本的生活習慣の確立、社会規範や安全等に関する指導を徹底し、他者を尊重する心を育成する。	①保護者と連携した基本的生活習慣の確立や交通指導等を実施する。 ②道徳教育研究協力校としての取組を進めるとともに、外部機関と連携し、「いじめ」「非行」防止教室を実施するとともに、インターネット等の危機意識、倫理意識を醸成し他者と協調する心を育成する。	①遅刻者数が減少したか。保護者と連携した交通安全指導を実施したか。 ②道徳教育研究協力校としての取組回数、外部講師活用状況、及び人権教育への取組状況	基本的生活習慣の確立では、欠席者数や早退者数は微減しているが、遅刻者数が増加した。 ①一日の平均遅刻者数は、27.0人(H27)→31.7人(H29.1.27現在)と約2割増増加。保護者と連携した登校時交通安全指導を年2回6日間行った。 ②「彩の国の道徳」を年5回活用し、独自教材による取り組みも行った。外部講師による3回の講演でもそれぞれ人間としての在り方生き方・人権教育に及んだ内容で行われた。
4	・多くの部活動が活発に活動している。 ・地域と連携した部活動支援体制を継続する必要がある ・生徒会活動を中心として生徒が各行事に主体的に取り組む成果をあげている。	・部活動の支援体制の充実に取り組み、地域との交流活動を促進する。	①部活動の活動の維持向上と支援体制を充実させる。 ②部活動や生徒会活動における地域との交流を促進する。	①関東大会、全国大会へ出場できたか。活動支援体制が継続できたか。 ②地域との交流回数。	部活動の支援体制の充実に取り組み地域との交流活動を促進することができた。 ①地域等からの大きな支援を得て、ラグビー部の全国大会や山岳部の関東大会で活躍した。 ②吹奏楽部による交流・広報活動は大きなもので4回に及ぶ(第17回全国高等学校選抜ラグビーフットボール大会開会式で入場行進曲演奏、埼玉県予選開会式での演奏、地域の公民館まつりでの演奏、深谷駅前壮行会での演奏)。生徒会による熊本地震募金73,064円。
5	・学校説明会や授業公開等での保護者や地域の人々の来校者をさらに増やす工夫が必要である。 ・部活動や生徒会の活躍をはじめ、学校の教育活動を積極的に発信し、様々な広報活動を通じて、それを生徒募集に結びつける必要がある。	・教育活動の情報発信を充実する。	①授業公開や学校説明会等の回数を維持するとともに内容を充実させ、来校者数を増やす。 ②学校ホームページを積極的に更新するとともに、「ふかこう通信」の他、伝達手段を開拓して地域への情報発信を行う。 ③中学校訪問回数を年2回実施し、中学との連携体制を発展させ、さらに信頼される学校づくりを行う。	①授業公開及び説明会等の実施回数の維持及び来校者数が増加したか。 ②学校ホームページの更新回数及びアクセス数。地域への情報発信回数。 ③中学校訪問回数。本校志望生徒数が増加したか。	教育活動の情報発信を充実させたが、北部地区の中学生が激減していく中で、本校志望生徒数の増加には結びつかなかった。 ①授業公開、学校説明会の実施回数は昨年と同数を維持。来校者は学校説明会で992人(H27)→898人(H28)と1割減少した。 ②学校ホームページの更新回数は900回、4月以降で30万を超えるアクセス数(1日平均約1000件)(1/31現在)におよび十分な成果である。 ③全職員による中学校訪問状況は、目標通り昨年度と同じ年2回を実施。本校への中学生の希望数は10・12月調査とも昨年度を下回った。

学校関係者評価	
実施日 平成29年 2月15日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
・会議の前に授業見学をおこなったが、授業に取り組む生徒の姿勢や頭髪等が大変素晴らしい。秩序が維持されていた。 ・家庭学習の重要性は、大学でも一緒である。保護者への協力を依頼する方法もあるのではないかと。 ・家庭学習については、中学校でも少なくとも苦慮している。 ・授業は分かりやすく、真面目に受けている。分からないところは先生方が補習で教えてくれたり、個別の課題を出してくれている。	
・就職内定100%は大変素晴らしい。 ・様々な選択肢を増やすために、一般入試でチャレンジして欲しい。	
・落ち着いた授業を受けていて規律が維持されているので、達成度はBではなく、Aでもないのではないかと。 ・遅刻を減少させるために、中学校ではチャイム前の着席、チャイムと同時の授業に取り組む、効果も上げた。 ・自転車の乗車マナーについては、友人同士で注意できるようになればいいのではないかと。	
・文武両道で、団体競技の山岳部やラグビー部が活躍しているのが素晴らしい。 ・生徒会活動は充実しており、生徒みんなで盛り上げている。 ・先生方が、生徒一人ひとりにしっかり目を配ってくれている。	
・どんな人材を育てるのかを、目指す学校像で具現化し、地域に発信して欲しい。 ・生徒減少の中、大変ではあるが、親が学校に来る、例えば保護者の授業参観者を増やすなどに取り組み、本校志望者を増やして欲しい。	
・最終的な本校志願者は、245名と募集定員を上回ることができた。(3月2日現在)	